

第1問 取引の仕訳を答える問題である。※今回、日商簿記ゼミ3級教本の参照ページを割愛させていただきます。

【解答】

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	売 上	350,000	売 掛 金	350,000
2	仕 入	850,000	買 掛 金	850,000
3	建 物	1,030,000	普 通 預 金	4,120,000
	土 地	3,090,000		
4	旅 費 交 通 費	11,250	未 払 金	16,250
	消 耗 品 費	5,000		
5	借 入 金	200,000	普 通 預 金	203,000
	支 払 利 息	3,000		

【解説】

1. 販売した商品が返品されたときの仕訳を問う問題である。

- ・販売した商品が返品されたので売上げの取り消しになる。

(借) 売 上 350,000

- ・掛け代金から差し引くから、貸方は売掛金になる。

(貸) 売掛金 350,000

2. 中古車販売業者が販売用の中古車を購入したときの仕訳を問う問題である。

- ・中古車販売業者にとっては、購入した中古車は商品であるということが POINT である。

したがって借方は仕入、貸方は買掛金となる。車両運搬具、未払金としないよう注意する。

(借) 仕 入 850,000

(貸) 買掛金 850,000

3. 土地付き建物を購入したときの仕訳を問う問題である。

・土地も建物も使用目的資産（使うために購入したもの）だから、使用できるまでにかかる諸費用はすべて取得価額に加算する。

・土地付き建物ですが、仕訳は土地と建物は分けて仕訳する。土地は減価償却はしないが、建物は減価償却をするからである。

(借) 建 物 **1,030,000** ←  $1,000,000 \times (1 + 0.03)$

土 地 **3,090,000** ←  $1,000,000 \times (1 + 0.03)$

・普通預金口座から振り込むより、普通預金（資産）の減少になる。

(貸) 普通預金 **4,120,000**

4. 従業員が立て替え払いした諸経費に関する仕訳を問う問題である。

・電車代とタクシー代は旅費交通費勘定（費用）で処理し、書籍代は消耗品費勘定（費用）で処理する。

(借) 旅費交通費 **11,250**

消耗品費 **5,000**

・未払金として計上したより、貸方は未払金（負債）で処理する。

(貸) 未払金 **16,250**

5. 借入金の返済に関する仕訳を問う問題である。

・借入金の今月返済分の元本¥200,000 より、借入金（負債）が減少する。

(借) 借入金 **200,000**

・利息が引き落とされたより、この利息は支払利息である。（もともと借入金の利息であるから支払利息であることがわかる。なお、利息の計算にあたっては問題文をよく読んでまちがえないようにする。

(借) 支払利息 **3,000** ←  $¥1,000,000 \times 0.0365 \times \frac{30 \text{ 日}}{365 \text{ 日}}$

・普通預金口座から振り込んだので、普通預金（資産）の減少になる。

(貸) 普通預金 **203,000**

第2問 買掛金勘定と買掛金元帳の関係を理解しているか問う問題である。

【解答】

A	B	C	D	E
現 金	普 通 預 金	次 月 繰 越	仕 入	前 月 繰 越

①	②	③	④	⑤
11,000	925,000	418,000	95,000	9,000

[解説] **確認** ・買掛金勘定の貸方に記入する金額は該当する買掛金元帳（人名勘定）の貸方に記入し、借方に記入する金額は該当する買掛金元帳（人名勘定）の借方に記入する。

**解答手順** （あくまでも一例である）

① 買掛金勘定の 10/1 の前月繰越＝北海道商店の 10/1 の前月繰越＋沖縄商店の 10/1 の前月繰越

↓

- ・北海道商店の 10/1 の（ ）および沖縄商店の 10/1 の（ E ）はともに前月繰越である。
- ・買掛金の 10/1 の 330,000 ＝北海道商店の 10/1 の 210,000 ＋沖縄商店の（ ）であるから、沖縄商店の（ ）は 120,000 になる。

② 買掛金勘定の 31（ C ） 293,000 は締切手続きであるから（ C ）は次月繰越になる。

- ・①と同じように、買掛金の次月繰越＝北海道商店の次月繰越＋沖縄商店の次月繰越の関係から、北海道商店、沖縄商店の 31 日の（ ）は次月繰越になる。
- ・買掛金の 31 日の 293,000 ＝北海道商店の 31 日の④＋沖縄商店の 31 日の 198,000 であるから、北海道商店の 31 日の④は 95,000（293,000－198,000）になる。

これより日付順に見ていく。

- ・10月8日の取引 買掛金の貸方と沖縄商店の貸方に記載されている。  
 沖縄商店の摘要欄が「仕入れ」とあるから、この取引が掛け仕入れ取引であることがわかる。したがって、買掛金のDは「仕入」となる。  
 また、③は 418,000 になる。  
 なお、買掛金勘定の摘要欄は相手勘定科目を記入するので、「仕入れ」と書かないよう注意する。
- ・10月9日の取引 買掛金の借方と沖縄商店の借方に記載されている。  
 沖縄商店の摘要欄が「返品」とあるから、この取引が掛け仕入れ取引の返品であることがわかる。仕訳は次のようになる。  
 （借）買掛金 ×× （貸）仕入 ××  
 金額はわからないので先に進む。

- ・ 10 月 15 日の取引 15 日の取引は買掛金の借方と沖縄商店の借方にある。そのことから、  
沖縄商店の 15 日の ( ) は、331,000 となる。  
沖縄商店の 15 日は「現金払い」とあるから、買掛金を現金で支払った取引であることがわかる。したがって、買掛金の 15 日の摘要欄は「現金」となる。
- ・ 10 月 21 日の取引 21 日の取引は、北海道商店の貸方にあるが、他には貸方はない。  
そのことから、買掛金勘定の貸方の日付のない記帳がこれに相当すると考えられる。  
したがって買掛金勘定の貸方の二つの ( ) は、21 日と「仕入」が入り、北海道商店の貸方の 21 日の金額は 821,000 となる。
- ・ 10 月 22 日の取引 北海道商店の 22 日に関係する取引は、買掛金勘定の同じ借方にある日付のない記帳だということがわかる。  
したがって、買掛金勘定の日付は 22 日、金額 ( ① ) はわからないので先に進む。  
なお、北海道商店の 22 日の摘要欄は「仕入れ」となる。
- ・ 10 月 25 日の取引 25 日の取引は買掛金の借方と北海道商店の借方にある。北海道商店の摘要欄に「普通預金払い」とあることから、この取引の仕訳は次のようになる。  
(借) 買掛金 ×× (貸) 普通預金 ××  
したがって、25 日の買掛金勘定の ( B ) は「普通預金」、( ② ) は 925,000 となる。

最後に、埋まっていないところを埋めていく。

- (a) 北海道商店の 22 日の金額が計算できる。 $1,031,000 - (925,000 + 95,000) = 11,000$
- (b) (a) の 11,000 は買掛金勘定の ( ① ) の金額である。
- (c) 買掛金勘定の 9 日の金額を次の手順で計算する。
  - ア、買掛金勘定の貸方合計を求める。1,569,000。
  - イ、買掛金勘定の借方合計に 1,569,000 と記入する。
  - ウ、差額で 9 日の金額を求める。
- (d) (c) のウの 9,000 が沖縄商店の ( ⑤ ) の金額である。

第3問 1月31日の合計試算表に、2月中の取引を加算し2月末の合計試算表を作成する問題である。

残高試算表ではないことに注意する。

【解答】

合 計 試 算 表

借 方 合 計		勘 定 科 目	貸 方 合 計	
2 月 28 日	1 月 31 日		1 月 31 日	2 月 28 日
362,000	110,000	現 金	2,500	304,500
		現 金 過 不 足		2,000
651,650	350,000	普 通 預 金		45,000
4,585,000	3,660,000	当 座 預 金	820,500	3,264,500
1,000,000		定 期 預 金		
2,635,000	1,615,000	売 掛 金	690,000	1,615,000
1,230,000	1,230,000	繰 越 商 品		
300,000	300,000	従 業 員 貸 付 金	50,000	100,000
1,000,000	1,000,000	備 品		
1,135,000	320,000	買 掛 金	1,135,000	1,395,000
60,000	30,000	所 得 税 預 り 金	60,000	95,000
		備品減価償却累計額	430,000	430,000
		資 本 金	5,702,500	5,702,500
		売 上	925,000	2,195,000
		受 取 利 息		50
1,330,000	820,000	仕 入	5,000	5,000
550,000	250,000	給 料		
15,000		広 告 宣 伝 費		
33,400	3,000	支 払 手 数 料		
11,500	5,500	水 道 光 熱 費		
15,000	7,000	通 信 費		
240,000	120,000	支 払 家 賃		
15,153,550	9,820,500		9,820,500	15,153,550

## 【解説】

## 解答手順

1. 2 月中の取引の仕訳を行う。

1 日 (借) 売掛金 350,000 (貸) 売上 350,000

2 日 (借) 仕入 260,000 (貸) 買掛金 260,000

6 日 (借) 売掛金 220,000 (貸) 売上 220,000

7 日 (借) 支払手数料 30,000 (貸) 普通預金 45,000

広告宣伝費 15,000

9 日 (借) 所得税預り金 30,000 (貸) 当座預金 30,000

※給料を支払ったときの仕訳

(借) 給料 ×× (貸) 所得税預り金 ×× ← 所得税の源泉徴収額  
現金など ××

13 日 (借) 売掛金 450,000 (貸) 売上 450,000

〃 日 (借) 支払手数料 400 (貸) 現金 400

14 日 (借) 現金 250,000 (貸) 売上 250,000

〃 日 (借) 現金 2,000 (貸) 現金過不足 2,000

※現金の過不足が判明したとき

どのような仕訳をすれば帳簿の金額が実際と一致するか考える。

この問題では (借) 現金 2,000 という仕訳をしてすれば、帳簿¥301,600 になり

実際と一致する。相手の勘定科目は現金過不足である。

15 日 (借) 普通預金 301,600 (貸) 現金 301,600

※会社にとって何が増えるかあるいは減るかを基準に考える。

16 日 (借) 仕入 250,000 (貸) 当座預金 250,000

19 日 (借) 普通預金 50 (貸) 受取利息 50

※利息、家賃、手数料などの勘定には、必ず頭に「受取」か「支払」が付く。

20 日 (借) 給料 300,000 (貸) 所得税預り金 35,000

従業員貸付金 50,000

当座預金 215,000

※従業員貸付金の元本返済額¥50,000 を差し引いたとは、従業員に貸していたお金¥50,000 (従業員貸付金) を差し引いて給料を支払ったということである。

〃 日 (借) 当座預金 925,000 (貸) 売掛金 925,000

〃 日 (借) 買掛金 815,000 (貸) 当座預金 815,000

26 日 (借) 定期預金 1,000,000 (貸) 普通預金 1,000,000

27 日 (借) 支払家賃 120,000 (貸) 当座預金 120,000

28 日 (借) 水道光熱費 6,000 (貸) 当座預金 14,000

通信費 8,000

2. 合計試算表を作成する。

勘定科目ごとに次の計算を行う。

- ・ 1 月 31 日の借方合計金額に 2 月の取引の借方金額を加算し、2 月 28 日の借方合計金額を求める。
- ・ 同様に、1 月 31 日の貸方合計金額に 2 月の取引の貸方金額を加算し、2 月 28 日の貸方合計金額を求める。  
例として現金勘定の記入を説明する。

合 計 試 算 表

借 方 合 計		勘 定 科 目	貸 方 合 計	
2 月 28 日	1 月 31 日		1 月 31 日	2 月 28 日
① 362,000	110,000	現 金	2,500	② 304,500

$$\textcircled{1} \quad \begin{matrix} 1/31 & 14 \text{ 日} & \text{〃} & 2/28 \\ \text{¥110,000} & + \text{¥250,000} & + \text{¥2,000} & = \text{¥362,000} \end{matrix}$$

$$\textcircled{2} \quad \begin{matrix} 1/31 & 13 \text{ 日} & 15 \text{ 日} & 2/28 \\ \text{¥2,500} & + \text{¥400} & + \text{¥301,600} & = \text{¥304,500} \end{matrix}$$

- ・最後に、2 月 28 日の借方合計額が貸方と合計額と ¥ 15,153,550 で一致していることを必ず確認する。

第4問 商品有高帳に関する問題である。

【解答】

(1)

商 品 有 高 帳  
X 商 品

平成	摘要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
6	1 前月繰越	100	300	30,000				100	300	30,000
	5 売 上				60	300	18,000	40	300	12,000
	8 売上戻り	10	300	3,000				50	300	15,000
	12 仕 入	150	308	46,200				200	306	61,200
	22 売 上				180	306	55,080	20	306	6,120
	30 次月繰越				20	306	6,120			
		260	—	79,200	260	—	79,200			

(2)	(3)
¥ 70,080	¥ 6,160

【解説】

(1) 移動平均法による商品有高帳

商 品 有 高 帳  
X 商 品

移動平均法

平成 30年	摘要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
6	1 前月繰越	100	300	30,000				100	300	30,000
	5 売 上				60	300	18,000	40	300	12,000
	8 売上戻り	10	300	3,000				50	300	15,000
	12 仕 入	150	308	46,200				200	① 306	61,200
	22 売 上				180	306	55,080	20	306	6,120
	30 次月繰越				20	306	6,120			
		260		79,200	260		79,200			

①の求め方

$$\frac{6/8 \text{ 残高金額 } \quad 6/12 \text{ 受入金額}}{50 \text{ 個 } \quad + \quad 150 \text{ 個}} = \text{¥}306$$

$\frac{\text{¥}15,000 \quad + \quad \text{¥}46,200}{6/8 \text{ 残高数量 } \quad 6/12 \text{ 受入数量}}$



(2) 払出欄の金額合計 ( ) 部分が売上原価 (売れた商品の原価) である。しかし、この問題では 6 月 8 日に売上の戻り ( ) 部分があるので、この ¥3,000 を ¥18,000 から差し引くことになる。注意が必要である。

$$\text{売上原価} = (\text{¥18,000} - \text{¥3,000}) + \text{¥55,080} = \text{¥70,080}$$

(3) 先入先出法による商品有高帳

商品有高帳

先入先出法

X 商品

平成 30 年	摘要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
6	1 前月繰越	100	300	30,000				100	300	30,000
	5 売 上				60	300	18,000	40	300	12,000
	8 売上戻り	10	300	3,000				50	300	15,000
	12 仕 入	150	308	46,200				50	300	15,000
								150	308	46,200
	22 売 上				50	300	15,000			
					130	308	40,040	20	308	6,160
	30 次月繰越				20	308	6,160			
		260		79,200	260		79,200			

第5問 貸借対照表と損益計算書を作成する問題である。

【解答】

貸借対照表  
平成 30 年 12 月 31 日

(単位：円)

<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>現金</td><td style="text-align: right;">( 135,000)</td></tr> <tr><td>普通預金</td><td style="text-align: right;">( 978,000)</td></tr> <tr><td>売掛金 ( 500,000 )</td><td></td></tr> <tr><td>貸倒引当金 (Δ 10,000 )</td><td style="text-align: right;">( 490,000)</td></tr> <tr><td>商品</td><td style="text-align: right;">( 235,000)</td></tr> <tr><td>前払費用</td><td style="text-align: right;">( 12,000)</td></tr> <tr><td>建物 ( 3,000,000)</td><td></td></tr> <tr><td>減価償却累計額 (Δ 1,300,000)</td><td style="text-align: right;">( 1,700,000)</td></tr> <tr><td>備品 ( 600,000)</td><td></td></tr> <tr><td>減価償却累計額 (Δ 50,000)</td><td style="text-align: right;">( 550,000)</td></tr> <tr><td>土地</td><td style="text-align: right;">1,800,000</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: right;"><u>(5,900,000)</u></td></tr> </table>	現金	( 135,000)	普通預金	( 978,000)	売掛金 ( 500,000 )		貸倒引当金 (Δ 10,000 )	( 490,000)	商品	( 235,000)	前払費用	( 12,000)	建物 ( 3,000,000)		減価償却累計額 (Δ 1,300,000)	( 1,700,000)	備品 ( 600,000)		減価償却累計額 (Δ 50,000)	( 550,000)	土地	1,800,000		<u>(5,900,000)</u>	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>買掛金</td><td style="text-align: right;">813,000</td></tr> <tr><td>前受収益</td><td style="text-align: right;">( 33,000)</td></tr> <tr><td>資本金</td><td style="text-align: right;">4,396,000</td></tr> <tr><td>当期純(利益)</td><td style="text-align: right;">( 658,000)</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: right;"><u>(5,900,000)</u></td></tr> </table>	買掛金	813,000	前受収益	( 33,000)	資本金	4,396,000	当期純(利益)	( 658,000)		<u>(5,900,000)</u>
現金	( 135,000)																																		
普通預金	( 978,000)																																		
売掛金 ( 500,000 )																																			
貸倒引当金 (Δ 10,000 )	( 490,000)																																		
商品	( 235,000)																																		
前払費用	( 12,000)																																		
建物 ( 3,000,000)																																			
減価償却累計額 (Δ 1,300,000)	( 1,700,000)																																		
備品 ( 600,000)																																			
減価償却累計額 (Δ 50,000)	( 550,000)																																		
土地	1,800,000																																		
	<u>(5,900,000)</u>																																		
買掛金	813,000																																		
前受収益	( 33,000)																																		
資本金	4,396,000																																		
当期純(利益)	( 658,000)																																		
	<u>(5,900,000)</u>																																		

損益計算書

平成 30 年 1 月 1 日から平成 30 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>売上原価</td><td style="text-align: right;">( 1,998,000)</td></tr> <tr><td>給料</td><td style="text-align: right;">( 760,000)</td></tr> <tr><td>水道光熱費</td><td style="text-align: right;">( 162,000)</td></tr> <tr><td>保険料</td><td style="text-align: right;">( 36,000)</td></tr> <tr><td>通信費</td><td style="text-align: right;">( 32,000)</td></tr> <tr><td>貸倒引当金繰入</td><td style="text-align: right;">( 6,000)</td></tr> <tr><td>減価償却費</td><td style="text-align: right;">( 150,000)</td></tr> <tr><td>雑(損)</td><td style="text-align: right;">( 1,000)</td></tr> <tr><td>固定資産売却損</td><td style="text-align: right;">( 90,000)</td></tr> <tr><td>当期純(利益)</td><td style="text-align: right;">( 658,000)</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: right;"><u>( 3,893,000)</u></td></tr> </table>	売上原価	( 1,998,000)	給料	( 760,000)	水道光熱費	( 162,000)	保険料	( 36,000)	通信費	( 32,000)	貸倒引当金繰入	( 6,000)	減価償却費	( 150,000)	雑(損)	( 1,000)	固定資産売却損	( 90,000)	当期純(利益)	( 658,000)		<u>( 3,893,000)</u>	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>売上高</td><td style="text-align: right;">3,890,000</td></tr> <tr><td>売上手数料</td><td style="text-align: right;">( 3,000)</td></tr> <tr><td></td><td style="text-align: right;"><u>( 3,893,000)</u></td></tr> </table>	売上高	3,890,000	売上手数料	( 3,000)		<u>( 3,893,000)</u>
売上原価	( 1,998,000)																												
給料	( 760,000)																												
水道光熱費	( 162,000)																												
保険料	( 36,000)																												
通信費	( 32,000)																												
貸倒引当金繰入	( 6,000)																												
減価償却費	( 150,000)																												
雑(損)	( 1,000)																												
固定資産売却損	( 90,000)																												
当期純(利益)	( 658,000)																												
	<u>( 3,893,000)</u>																												
売上高	3,890,000																												
売上手数料	( 3,000)																												
	<u>( 3,893,000)</u>																												

【解説】

決算整理事項等

1. 取引の未記帳

(借) 普通預金 50,000 (貸) 現金 50,000

2. 現金過不足勘定の整理

(借) 通信費 2,000 (貸) 現金過不足 3,000  
 雑 損 1,000

※現金不足額¥3,000のうち、¥2,000については通信費の記帳もれであることが判明したが、残りの不足額¥1,000については原因不明のため、雑損勘定で処理する。

3. 仮受金勘定の整理

(借) 仮受金 68,000 (貸) 売掛金 68,000

4. 訂正仕訳

訂正仕訳は次の手順で行うと分かりやすい。

① 間違っで行われた仕訳をなかったものにするために、間違っ仕訳の逆仕訳を行う。

(借) ~~車両運搬具 800,000~~ (貸) ~~現金 10,000~~  
 固定資産売却損 ~~790,000~~  
 700,000

② 本来行われるべき正しい仕訳を行う。

(借) 車両運搬具減価償却累計額 700,000 (貸) ~~車両運搬具 800,000~~  
~~現金 10,000~~  
~~固定資産売却損 90,000~~

①と②を相殺すると次のようになる。

(借) 車両運搬具減価償却累計額 700,000 (貸) 固定資産売却損 700,000

5. 貸倒引当金の設定

(借) 貸倒引当金繰入 6,000 (貸) 貸倒引当金 6,000  
 -費用- -受取手形・売掛金の評価勘定-

※ 貸倒引当金繰入額の計算

$$\text{売掛金} ( \text{¥}568,000 - \text{¥}68,000 ) \times 2\% - \text{¥}4,000 = \text{¥}6,000$$

残高試算表          決算整理事項 3.          貸倒引当金残高

6. 売上原価の計算

(借) 仕 入 198,000 (貸) 繰越商品 198,000 … 期首商品棚卸高 (残高試算表「繰越商品」)  
 (借) 繰越商品 235,000 (貸) 仕 入 235,000 … 期末商品棚卸高 (問題文に指示)

7. 減価償却費の計上 (建物・備品)

(借) 減価償却費 150,000 (貸) 建物減価償却累計額 100,000

—費用—

備品減価償却累計額 50,000

※減価償却費の計算 (定額法)

$$\text{〈建物〉} \quad \frac{\text{取得原価}}{\text{耐用年数}} = \frac{\text{¥3,000,000}}{30 \text{年}} = \text{¥100,000}$$

$$\text{〈備品〉} \quad \left( \frac{\text{取得原価}}{\text{耐用年数}} \right) \times \frac{5 \text{ か月 (8月~12月)}}{12 \text{ か月}} = \text{¥50,000}$$

8. 前払保険料の計上 (費用の前払い)

(借) 前払保険料 12,000 (貸) 保険料 12,000

—資産—



B/S に前払費用として計上する。

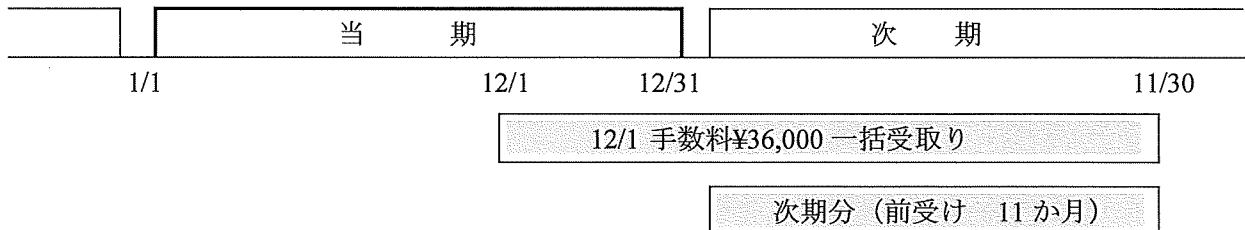
9. 前受手数料の計上 (収益の前受け)

(借) 受取手数料 33,000 (貸) 前受手数料 33,000

—負債—



B/S に前受収益として計上する。



※ 前受手数料の計算

$$\text{¥36,000} \times \frac{11 \text{ か月}}{12 \text{ か月}} = \text{¥33,000}$$

d〔貸借対照表・損益計算書作成上の POINT〕

貸借対照表

1. 貸倒引当金は売掛金から控除する形で記載する。
2. 減価償却累計額は建物、備品それぞれ控除する形で記載する。
3. 前払保険料（資産）は「前払費用」、前受手数料（負債）「前受収益」として記載する。

なお、費用・収益の前払い・前受け、未払い・未収に関わる勘定科目については、それが資産なのか負債なのか正しく理解しておくことが大切である。

損益計算書

1. 仕入勘定の残高は「売上原価」として記載する。
2. 売上勘定の残高は「売上高」として記載する。

最後に、当期純利益¥658,000 が、貸借対照表と損益計算書で一致していることを確かめる。